

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/3/5作成 (株)新出光

【概況】 <OPEC+会合に振り回された原油相場>

●26日、石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が3月4日に予定する会合では、最近の石油価格の回復に対応して現行の協調減産措置を4月から縮小する方針を示すとみられています。また、最新週の米エネルギー情報局(EIA)統計によると、原油在庫は520万バレル減少の予想に対して、130万バレルの積み増しとなりました。

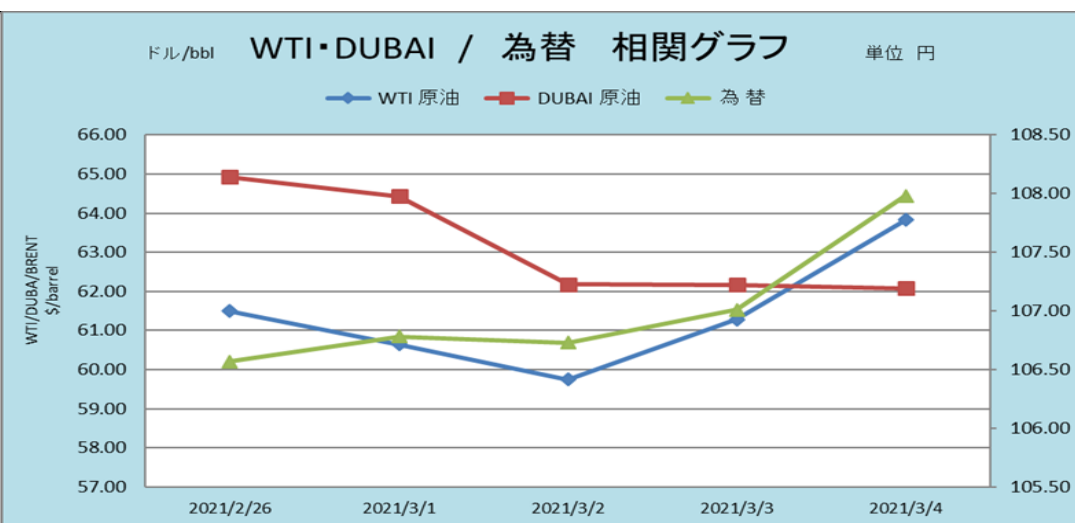
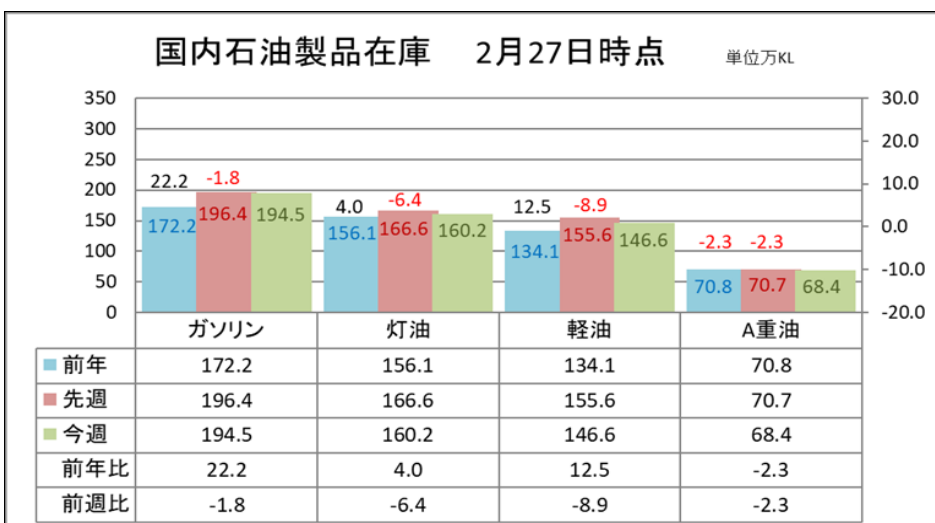
●1日、中国国家統計局が発表した2月の製造業購買担当者景況指数(PMI)が3カ月連続で低下し、低い水準となったことや、OPECプラスが4日に開く会合で、現行の協調減産合意を見直し、最大日量150万バレルの減産緩和に動く可能性があるとの分析から売りの動きが広がりました。また、ドル高による原油先物の割高感を促し、その後WTI原油で一時60ドルの大台を割り込みました。

●2日、OPECプラスの4日の会合では、現行の協調減産方針を見直し、最大日量150万バレルの減産緩和で合意するとの見方が台頭したことが引き続き下落要因となりました。その後、会合の結果を見極めたいとの思惑から様子見ムードが広がったようです。

●3日、OPECプラスは4日に予定されている会合で、これまで現行の協調減産方針を見直し、最大日量150万バレルの減産緩和に動くとの観測が浮上していましたが、3月から4月にかけて現行の減産維持に動く可能性があるとの報道があり、これを受けて、需給不均衡に対する警戒感が後退し、原油が大きく買われました。また米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間統計では、原油在庫が2160万バレル増と、市場予想の90万バレル減に反して大幅な積み増しとなり、前週比での増加幅は過去最大となりました。同時にガソリンは1360万バレル減(同予想230万バレル減)、ディステレート(留出油)は970万バレル減(同300万バレル減)と、石油製品がともに大幅な取り崩しとなったことで買いも入り、売り圧力は一時的となったようです。ガソリン在庫の減少幅は過去最大となっています。

●4日、WTI原油相場は、有力産油国による現行の減産規模の維持決定を受けて買いが膨らみ、大幅続伸しました。イエメンの親イラン武装組織フシ派が、隣国サウジの国営石油会社サウジアラムコの関連施設を攻撃したと主張したことも需給引き締め観測を強めたようです。

3月5日 17:00現在 WTI原油 64.90ドル 為替 1ドル 108.05円



	次回元売変動予測	
	3/11~	元売変動予測
ガソリン	→	±0~+0.5
灯油	→	±0~+0.5
軽油	→	±0~+0.5
A重油	→	±0~+0.5
LSA	→	±0~+0.5

※現段階の原油コストによる予想です

【製品卸価格】 <原油相場一転し、市況上昇>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+2.0円」の値上げでした。原油コスト「+1.5円」に原油調整金「+0.5円」だったようです。この時点では原油も連日下落基調でしたので、月間玉の消化売りが始まっていました。ただ、改定日翌日にはOPECは減産幅の維持を検討しているとの報道を受け、原油が反転しましたので、金曜分までの見積りを出していたディーラーは引くに引けない状況となっていました。

《3月6日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「±0~+0.5円」の予測です。元々-1.0円程度の値下げが一時噂されましたが、原油相場の上昇により小幅での改定となりそうです。週末分は前日とは一転し、油槽所の在庫玉や月間リンクでの仕入れ玉は市場から一步引き、各地市況の上昇が見受けられます。ただ灯油に関しては、3月後半での需要を懸念し、2次基地や3次基地では消化売りによる値下げの動きもあり、週末の市況は少し悪化しています。緊急事態宣言も関東一都三県では、21日まで延長される見込みとなっており、ガソリンや軽油の出荷への影響は今後も続きそうです。先月同様に月間リンク玉は販売しづらい状況下ですので、週決め玉メインの市況となりそうです。

【トピック】 <OPEC+会合>

3月4日にOPEC+会合があり、4月の方針を話し合いました。当初OPECが50万バレルの減産幅の縮小、サウジアラビアが自主減産幅を50万バレル縮小するとの方針が伝わっていましたが、会合の結果としては、ロシア・カザフスタンを除いた主要産油国は現行の減産幅を維持することに決まりました。またサウジアラビアも自主的に日量100万バレル減産をしておりますが、4月も継続することが決まっています。原油相場も株高につられて上昇基調で昨年の年始頃の水準まで値戻ししておりましたが高値警戒感が広がり、株や原油などのリスク資産は一時下げ幅を拡大しました。ただ、OPECやサウジアラビアが減産幅を維持するとの思惑から買い戻しの動きとなり反発していました。加えて今回正式に現行の減産幅を維持すると決まり、上昇幅を拡大した形です。この発表により、3月の原油相場は下支えされる可能性が高そうです。